

Ⅲ 授業の実践例

1 第5・6学年国語科の実践例

- (1) 単元・教材名
文章の主旨をたえ、自分の考えを発表しよう (教材「笑うから楽しい」[時計の時間と心の時間]「主張と事例」光村図書5年上)
- (2) 本時の目標
○ 事実と感想、意見などとの関係を、叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握できるようにする。
【2C(1)ア】

- 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりできるようにする。【2C(1)ア】

研究の視点	主な活動内容 (第5学年) 3/8時間	主な活動内容 (第6学年) 3/8時間	研究の視点
【視点1】子供主体的に学習を進める「ガイド学習の遊び」	<p>1 単元のめあてと終末の言語活動を確認し、前時を振り返る。</p> <p>2 本時の学習のめあてをつかむ。 「中」は、何のためにあるのだろう。</p> <p>3 学習の進め方を確認する。</p> <p>4 「中」の役割について考える。 (1) 書かれた内容に着目し、第②段落の役割を考える。 「見立てる」ことの例として、第②段落で「あやとり」を取り上げていたんだね。 (2) 書かれた内容に着目し、第④段落の役割を考える。 第④段落では、同じ形に対してつけられる名前が違ふ日本の例を挙げているね。 第⑤段落では、同じ形に対してつけられる名前が違ふ世界の例を挙げているね。</p> <p>5 「中」の役割は、筆者の考えを支える事例を挙げて、読むことを読み手に納得させる役割があるんだね。 「中」の役割は、「見立てる」「見立てる」といふことを読み手に納得させる役割があるんだね。 「中」の役割は、筆者の考えを支える事例を挙げて、読むことを読み手に納得させる役割があるんだね。</p> <p>6 学習のまとめをする。 筆者の考えをより分かりやすくするために、「中」がある。</p> <p>7 学習を振り返る。 (1) できるよようになったこと (2) 考えの発露 (3) 変容の要因</p> <p>8 次時の学習の見通しをもつ。</p>	<p>1 単元のめあてと終末の言語活動を確認し、前時を振り返る。</p> <p>2 本時の学習のめあてをつかむ。 筆者の主張をたえらえるには、どのように読めばよいだろうか。</p> <p>3 学習の進め方を確認する。</p> <p>4 2つの事例が挙げられている意図を考える。 (1) 事例がある場合とない場合 主張だけの文章では、筆者の言いたいことは分かるけど、なるほど納得はしにくいな。 (2) 事例が一つだけの場合 口を揃えて聞く実験の事例だけだったら、人によっては納得できないかもしれないね。</p> <p>5 2つの事例が挙げられている意図について話し合う。 事例がなかったら筆者の主張を確かめられないから、読み手に実験体験してもらって、主張を理解してもらおうとする意図があるのかも。 実験にできない実験の後に、実験にはできない実験を事例として挙げることで、さらに納得力をたせる意図があるのかも。</p> <p>6 学習のまとめをする。 筆者は、自分の主張に合った事例を挙げているので、事例を誰かと主張がとらえやすい。</p> <p>7 学習を振り返る。 (1) できるよようになったこと (2) 考えの発露 (3) 変容の要因</p> <p>8 次時の学習の見通しをもつ。</p>	<p>【視点1】②共通点と相違点を生かした話し合い</p> <p>双括弧の文章で、筆者の主張の一文はどれか考えさせ、そのように考えた理由を明らかにさせ、その理由の共通点を基に話し合いをさせた。 C1: 例えが書かれていたから、主張は「心→体」を表しているAの文だと思っています。 C2: ぼくはC1さんと違って、事例②で「体→心」の実験をしているから、「体→心」を表しているBの文が主張だと思っています。 全員が考えを発表し、その考えを短冊黒板で可視化することにより、一人一人が責任感をもって学習に取り組むようになった。</p> <p>【視点2】③自分の考えの変容とその要因の振り返り</p> <p>自分の考えの変容が実感できるように、筆者の主張の発露方がどう変化したのか、最初の考えと最終的な考えを比較させた。 「C2の考え直し(変容:修正)」 わたしは、「心→体」の主張が筆者の一番の主張だと思っていたけれど、C1さんの考えを聞いてより題名に着目したりすることで「体→心」の主張の方がより伝えたい主張だと考えが変わりました。 T: C2さんは、C1さんの考えを聞いて自分の考えを変えたので、友達の意見をきつかけにもう一度文書を読み直して、自分の考えを変えたのがすごくいいですね。 上のように、他者の考えのよさに気付いた子供を称賞し、価値付けを行った。</p>
【視点1】子供主体的に学習を進める「ガイド学習の遊び」	<p>1 単元のめあてと終末の言語活動を確認し、前時を振り返る。</p> <p>2 本時の学習のめあてをつかむ。 「中」は、何のためにあるのだろう。</p> <p>3 学習の進め方を確認する。</p> <p>4 「中」の役割について考える。 (1) 書かれた内容に着目し、第②段落の役割を考える。 「見立てる」ことの例として、第②段落で「あやとり」を取り上げていたんだね。 (2) 書かれた内容に着目し、第④段落の役割を考える。 第④段落では、同じ形に対してつけられる名前が違ふ日本の例を挙げているね。 第⑤段落では、同じ形に対してつけられる名前が違ふ世界の例を挙げているね。</p> <p>5 「中」の役割は、筆者の考えを支える事例を挙げて、読むことを読み手に納得させる役割があるんだね。 「中」の役割は、「見立てる」「見立てる」といふことを読み手に納得させる役割があるんだね。 「中」の役割は、筆者の考えを支える事例を挙げて、読むことを読み手に納得させる役割があるんだね。</p> <p>6 学習のまとめをする。 筆者の考えをより分かりやすくするために、「中」がある。</p> <p>7 学習を振り返る。 (1) できるよようになったこと (2) 考えの発露 (3) 変容の要因</p> <p>8 次時の学習の見通しをもつ。</p>	<p>1 単元のめあてと終末の言語活動を確認し、前時を振り返る。</p> <p>2 本時の学習のめあてをつかむ。 筆者の主張をたえらえるには、どのように読めばよいだろうか。</p> <p>3 学習の進め方を確認する。</p> <p>4 2つの事例が挙げられている意図を考える。 (1) 事例がある場合とない場合 主張だけの文章では、筆者の言いたいことは分かるけど、なるほど納得はしにくいな。 (2) 事例が一つだけの場合 口を揃えて聞く実験の事例だけだったら、人によっては納得できないかもしれないね。</p> <p>5 2つの事例が挙げられている意図について話し合う。 事例がなかったら筆者の主張を確かめられないから、読み手に実験体験してもらって、主張を理解してもらおうとする意図があるのかも。 実験にできない実験の後に、実験にはできない実験を事例として挙げることで、さらに納得力をたせる意図があるのかも。</p> <p>6 学習のまとめをする。 筆者は、自分の主張に合った事例を挙げているので、事例を誰かと主張がとらえやすい。</p> <p>7 学習を振り返る。 (1) できるよようになったこと (2) 考えの発露 (3) 変容の要因</p> <p>8 次時の学習の見通しをもつ。</p>	<p>【視点1】②共通点と相違点を生かした話し合い</p> <p>双括弧の文章で、筆者の主張の一文はどれか考えさせ、そのように考えた理由を明らかにさせ、その理由の共通点を基に話し合いをさせた。 C1: 例えが書かれていたから、主張は「心→体」を表しているAの文だと思っています。 C2: ぼくはC1さんと違って、事例②で「体→心」の実験をしているから、「体→心」を表しているBの文が主張だと思っています。 全員が考えを発表し、その考えを短冊黒板で可視化することにより、一人一人が責任感をもって学習に取り組むようになった。</p> <p>【視点2】③自分の考えの変容とその要因の振り返り</p> <p>自分の考えの変容が実感できるように、筆者の主張の発露方がどう変化したのか、最初の考えと最終的な考えを比較させた。 「C2の考え直し(変容:修正)」 わたしは、「心→体」の主張が筆者の一番の主張だと思っていたけれど、C1さんの考えを聞いてより題名に着目したりすることで「体→心」の主張の方がより伝えたい主張だと考えが変わりました。 T: C2さんは、C1さんの考えを聞いて自分の考えを変えたので、友達の意見をきつかけにもう一度文書を読み直して、自分の考えを変えたのがすごくいいですね。 上のように、他者の考えのよさに気付いた子供を称賞し、価値付けを行った。</p>

- (4) 成果と課題 (成果○ 課題●)
- 板書の構造化を図り、1単元時間の学習の流れを提示することで、子供たちがより主体的に学習に取り組むことができた。
 - 自分の考えを可視化し互いの考えの共通点と相違点を捉えて話し合わせることで、考えを広げたり(付加・修正)深めたり(巩固)することができた。
 - 学年間で学習内容をたえ、異学年の子供同士による振り返りを行うことで、互いの学習内容と関連付けて、より理解を深めることができた。
- 特に5年生は学びに深まりを欠いてしまった。前時の学びや単元終末の言語活動とのつながりをより意識できるように、めあての文言等を工夫していく必要がある。
 - 最後まで黙った考えのままの子供がいた。コーディネーターとして、話し合いの場面等が必要に応じて適した指導をしていく必要がある。
 - 自分の考えの変容を自覚できていない子供がいた。授業のねらいに合わせた振り返りの視点を指導者がもっておく必要がある。